

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Clinical characteristics of patients with myasthenia gravis accompanied
by psychiatric disorders

(精神疾患を伴った重症筋無力症患者の臨床的特徴)

内科学 (神経・脳卒中科) (指導教授又は研究科紹介教授 芳川浩男)

氏 名 山本 麻未

重症筋無力症 (MG) では筋力低下や易疲労性などの運動症状がよく知られているが、しばしば不安障害やうつなどの精神疾患も伴う。今回我々は、当院で加療された 103 名の MG 患者について精神疾患の合併の有無と、その特徴や要因について検討した。

結果は 103 人中 24 人 (23.3%) が精神疾患を有しており、内訳はうつが 10 例、不安障害 6 例、妄想性障害 3 例、せん妄 2 例、身体表現性障害 1 例、統合失調症 1 例、パーソナリティ障害 1 例であった。精神疾患を引き起こす関連因子について過去の報告を分析すると、①自己抗体、②ステロイド内服量、③MG そのものの病状、の 3 つに大別される。本研究では様々な臨床パラメータと精神症状との関連を統計学的に検討したが、抗 AchR 抗体価、ステロイド内服量を含め、有意な関連のあるパラメータは見られなかった。一方で、精神症状と MG そのものの病状が関連している症例は、24 人中 12 人で見られた。これらの患者は MG の病状悪化とともに精神症状も悪化していた。ステロイドの導入前から精神症状が出現した患者や、MG の症状改善とともに精神疾患も改善し、その後はステロイドを増量しても精神疾患は悪化しなかった患者も存在した。また、MG と同様にステロイドを長期間内服する筋炎 (多発性筋炎、皮膚筋炎) の患者 31 例では、ステロイド内服量は MG 患者群と大差がないにもかかわらず、精神疾患の合併頻度は 9.7% と低い傾向にあり、原疾患の病状に伴って精神疾患が悪化することもなかった。

これらの結果により、MG 患者においてはステロイド内服量ではなく原疾患の病状と関連した精神疾患が特徴的にみられるのではないかと我々は考えている。その理由としては、MG の疾患の性質が大きく影響しているであろう。具体的に言えば、今回の調査において精神疾患群の症例の多くは、MG の症状増悪や不安定性、病名告知が誘因となって精神症状が悪化していた。

精神疾患の発症や悪化は、MG の治療に支障をきたす場合があるため、MG 患者に対しては精神疾患の発症の予防や適切な治療が重要である。